

第6学年3組 道徳科学習指導案

指導者

令和7年7月15日(火) 第5時限 6年3組教室

1 主 題 誠実に生きる [A-(2) 正直、誠実]

2 教 材 手品師 (教科書P76～79)

3 主題設定の理由

(1) 価値観

自信をもって自分らしく明るく生きるためには、自分自身に対して誠実であり続けることが大切である。しかし、時には迷うことや悩むこともたくさんある。他者や自分自身のこと、多角的な価値観があるからこそ迷いが生じる。それらの価値観に対して、真剣に向き合っているからこそ、迷いはより深くなることもある。その葛藤こそが「誠実」であり、その葛藤を乗り越え自分なりの納得解を見つけ、自分の良心に従って行動することが、自分らしさにつながっていく。

高学年の発達段階においては、自分自身に誠実に生きようとする気持ちをもちながら他者と接することにより、自己決定する場が増え、自己肯定感の高まりや自信の向上につながる。しかし、学年が上がるにつれ、周囲の受け止め方を意識しすぎてしまい、自分の意に反して周囲に流されてしまうことがある。そこで、周囲に流されたり、傍観者として過ごしたりすることなく、自分自身に誠実に、自分の良心に従って生きることの大切さに気付くことは、明るい心で伸び伸びとした生活を実現する上で大切な道徳的心情であると考ええる。

(2) 児童観

本学級には、泣いている級友がいたら駆け寄って声を掛けたり、係や当番の仕事を手伝ったりするなど、周囲の気持ちを考えて行動をすることができる児童が多い。しかし、授業のグループワークやレクリエーション決めでは、自分の気持ちよりも友達の気持ちを優先してしまい、自分がやりたいことを言い出せずに周囲の雰囲気の流れに流されたり、合わせたりしてしまう児童もいる。また、自分の思いや考えをもち、それを相手に伝えることは大切だと分かっているが、気の強い子が言ったことに流されたり、自分が少数派だと意見を言えなくなってしまうといったように、自分のやりたいことよりも、周りや周囲に流されて行動してしまう様子が普段の生活からみられる。そこで、周りに流されずに、自分自身に誠実に生きることの大切さに気付く、自分なりの納得解を見つけ、自分の良心に従って生きようとする児童を育成したい。

(3) 教材観

本教材は、大劇場のステージに立つことを夢見て、貧しい生活を送りながらも日々手品の練習に励む手品師が、独りぼっちで淋しそうにしている男の子と出会うところから始まる。手品師が男の子に手品を見せて喜ばせ、翌日も手品を見せることを約束するが、友人から突然、大劇場への誘いの電話が入る。男の子との約束と昔からの自分の夢のどちらを優先すべきか葛藤した末、男の子との約束を優先するという話である。自分にとって優先すべきことを決める際には、自分自身に誠実になり、自分なりの納得解を見つけ、自分の良心に従って生きることの大切さを考えることに適した教材である。

指導にあたっては、はじめに、アスリートの言葉から「誠実」について触れ、児童に「誠実」という言葉のイメージを聞く。意見を共有した後に『「誠実」に生きるとは』という学習課題を示す。その後、教材に基づいて登場人物の気持ちを確認しながら学習活動を展開する。手品師が男の子との約束をしたとき、大劇場への誘いがあつたときのそれぞれの気持ちを考えさせた上で、「あなたが手品師だったらどうするか」と問う。このとき、タブレットPCの「心の数直線」を用いて、児童一人一人の思考を可視化する。そして、問い返しや意図的指名などを行い、学級全体で話し合わせることで自分の意見とは違う見方に気付かせたり、自分の考えを深めさせたりする。話し合いをしていく中で、「手品師は誠実だといえますか」と問い、男の子との約束を守った手品師は、もちろん誠実な決断を下したといえるが、仮に大劇場を選び、自分の夢に向かう行為も自分自身に誠実に生きていることに気付かせる。つまり、行動や選択ではなく、気持ちや心の奥底にある行動心理に目を向けていく。手品師の行動心理や葛藤に目を向け、「誠実」に生きるとは、単に自分の気持ちに正直に生きるのではなく、相手のことや周りのことを考え、自分自身で納得解を見つけることであると気付く、自分の良心に従って生きていこうとする児童を育てていきたい。

4 指導計画 1時間完了

5 本時の指導

(1) 本時のねらいと評価

明るい心で伸び伸びとした生活をするために、自分自身に誠実に生き、自分なりの納得解を見つけ、自分の良心に従って生きようとする判断力や心情を育てる。

【評価】(ワークシートの記述内容)

自分のこれまでの生活を振り返り、自分自身に誠実に、自分の良心に従って生きていくために、これからの実生活でどのようにしていきたいかを述べている。

(2) 準備・資料

教師 タブレットPC 教材文シート ワークシート 場面絵

児童 タブレットPC

(3) 関 連

第5学年の「参考にするだけなら」では、自分自身に誠実に生きるにはどんな心が大切かを考えさせ、うそやごまかしをせずに、明るい心で生活しようとする児童の育成をねらいとする。また、本教材では、自分自身に誠実に生きていくとはどういうことかを考え、その大切さに気付く、納得解を考え、自分の良心に従って生きていこうとする児童の育成をねらいとする。

(4) 指導過程 [本時の学習課題]

◇ 主な発問

◆ 中心発問

補 補助発問

段	分	学 習 活 動	指 導 の 手 だ て
導 入	4	1 アスリートの言葉から「誠実」について考える。	○ 「誠実」という言葉について考えるために、アスリートの言葉を紹介する。
	1	2 本時の学習課題をつかむ。	○ 「誠実」という言葉のイメージを共有するために、考えて話し合うよう伝える。
展 開		「誠実」に生きるとは、どう生きることだろうか。	
	3 2	3 教師の範読を聞き、登場人物の心情について話し合う。 (1) 教師の範読を聞く。(手品師が友人からの電話で迷っているところまで) (2) 物語の内容を確認し、登場人物の心情を読み取る。	○ 短時間で物語の内容と登場人物の気持ちや関係性を把握するために、挿絵を用いてテンポよく確認する。(場面絵)
	15	(3) 自分が「手品師」だったらどうするかを考える。【個→ペ→斉】 ◇ あなたが手品師だったら、「男の子」か「大劇場」のどちらを選びますか。 [約束を守るために男の子を選ぶ] ・ 翌日も喜ばせてあげたいから。 ・ 明日行かなかったら、もう男の子に会えないかもしれないから。 ・ 大劇場に行きたい気持ちは分かるが、約束を破るのはどうなんだろうか。 [自分の夢だった大劇場を選ぶ] ・ 夢だった大劇場へのチャンスを逃したくない。 ・ 今の貧乏な生活を抜け出したい。将来のことを考えると大劇場に行く。 ・ 男の子に事情を伝え、後で男の子に手紙を送ったり、もう一度手品を見せたりすればよいのではないか。	○ テーマに沿って考えを記述するよう促す。(ワークシート) ○ 「心の数直線」を用いて、個々の考えを可視化できるようにする。(タブレットPC) ○ 「心の数直線」を使って、近くの友達と話し合わせ、その後全体で意見交流させる。
	7	4 続きを範読し、手品師について考える。【個→斉】 ◆ 手品師は誠実だといえますか。 ・ 約束を守ったから誠実だと思う。 ・ 男の子に対して誠実だと思う。 ・ いろいろなことを考えた上で決断しているから、誠実だと思う。 ・ 自分が納得する決断をしているから誠実だと思う。	○ どちらを選ぶのか理由とともに発表するよう伝える。 ○ 「心の数直線」を用いて、子どもたちの迷う気持ちを引き出す。 補 今後も貧しい生活を続けていくことになるかも知れませんが、それでもよいのですか。 補 ただ単に自分の気持ちに正直に生きていくのは誠実と言えますか。 補 男の子にもう会えないかも知れませんが、それでもよいのですか。
終 末	7	5 「誠実」について考える。【個→斉】 ◇ 「誠実」に生きるとは、どう生きることだろうか。 ・ ただ単に自分の気持ちに正直に生きるのではなく、周りや相手のことを考えて行動していくこと。 ・ 人それぞれ誠実と感じることは違うが、他者に対しても、自分に対しても誠実で納得した考えをもつことは大切。	○ 約束を守ることのような、他者に対する誠実と、自分自身に対する誠実の両方に気付くことができるよう、構造的な板書をつくる。 ○ 選択ではなく行動心理に目を向けることができるように、「どのようなところに誠実さを感じたのか」と問う。 補 自分の気持ちを我慢してでも、約束を守る人は誠実だといえますか。
	6	6 今日の授業で学んだことを踏まえ、これからどのように生きていくのかを考える。【個】	○ 自分の考えがどれくらい豊かになったのか実感できるように、最初に考えた「誠実」と比較するよう伝える。 ○ 問い返しをして、多様な価値観に触れることができるようにする。
			○ 日常生活を振り返り、本時の学習と結び付け、これからどうしていきたいかを書くよう伝える。(ワークシート) ★評価の場面